

南みのわ 農業委員会だより 第26号

村の木「赤松」

- 女性委員がレモン農家を視察 1
- 農業功績者・農業名人の紹介
農地利用調整会議・農業者意見交換会 2～3
- 農地パトロール・遊休農地調査の結果 3
- 農業とびっくす 4

令和6年3月1日発行 南箕輪村農業委員会
発行責任者：会長 唐澤喜廣
編集：南箕輪村農業委員会だより編集委員会
〒399-4592 長野県上伊那郡南箕輪村4825番地1
TEL.0265-72-2176 FAX.0265-73-9799
E-mail: nougyou-d@vill.minamiminowa.lg.jp

南箕輪村役場ウェブサイト ▶▶▶▶▶▶
<https://www.vill.minamiminowa.lg.jp>



女性委員がレモン農家を視察

上伊那の農業委員会に所属する女性委員が一堂に会し、中川村でレモン栽培をしている農家を訪ねました。たわわに実る新鮮なレモンを使って、お菓子やサラダなどを調理し、地産地消の大切さや新たな特産品の活用について認識を深めました。



北部3町村農業委員会交流会

令和5年10月24日

辰野町、箕輪町、南箕輪村の委員が村民センターに集まり、将来の地域農業について考える「地域計画」に関する勉強会と情報交換を行いました。



農産物フェア

令和5年10月21日

大芝公園で農産物フェアが開かれ、新鮮な野菜やお米の販売、豚汁の無料配布等が行われ、多くの人で賑わいました。



収穫祭で炊き立てご飯

令和5年11月11日

まっくん田んぼ体験隊の収穫祭が行われ、村の女性農業者「輪の会」の協力のもと、かまどで炊いた「風の村米だより」でおにぎりを作っていただきました。



りんごにっこり!

令和5年12月12日

村営農センターによる、学校給食と保育園児へのりんご(村産サンふじ)のプレゼントが行われました。



大泉田園景観保全会が最優秀賞!

大泉田園景観保全会の取組みが、令和5年度関東農政局多面的機能発揮促進事業局長表彰で最優秀賞を受賞しました。



芝の移植作業

編集後記

昨年7月に農業委員の改選が行われ、15人の農業委員、農地利用最適化推進委員のうち9人が新たに委員となりました。編集委員も新たなメンバーとなり、はじめての農業委員会だよりとなります。みなさんのご意見をお聞かせください。

今年は、10年後の地域農業の在り方について考える「地域計画」策定の年となります。大切な農地を、どう守り、次の世代につないでいくかを、地域のみんなで考え、話し合いをして、方向性を明らかにする大切な計画です。みなさんのご協力をお願いします。

(編集委員 唐澤英樹)

お知らせ 農地相談会&新規参入相談会

日時 3月9日(土)

午前9時～12時

(要予約 1組30分以内)

場所 役場1階相談室

(玄関ホール横)

ご予約は、QRコード又は
お電話で3月7日(木)
までお願いします。

農業委員会事務局
☎72-2176

(平日午前8時30分
～午後5時15分)



農地パトロール・遊休農地調査の結果

農業委員会では、夏期に農地パトロールを行っています。主な目的は、遊休農地の早期発見、違反転用の対策（解消）であります。

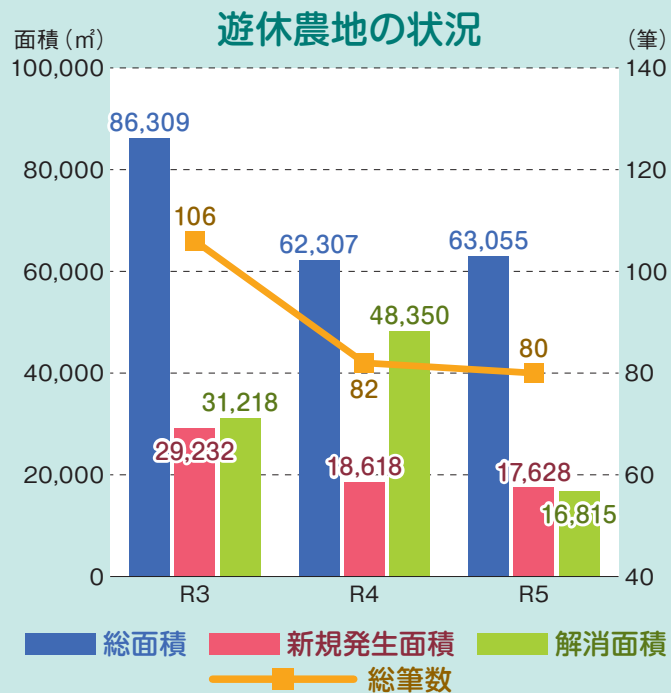
農地が遊休化すると、雑草、灌木等が繁茂し、周辺に雑草の種子が飛散したり、鳥獣のすみかとなったり、あるいは火災

の発生源ともなり、各地区の脅威となります。

各個人でさまざまな事情があるとは思いますが、対策



をしていただくことを切に希望しております。もし、困りごとの解決に妙案が思い浮かばない場合は、地区の農業委員や役場の農業委員会事務局に相談していただければ、解決方法を一緒に考えますので、勇気を持ってご一報ください。



上伊那農業委員会協議会が主催する令和5年度の「農業功績者」に大泉区の田中実さん、「農業名人（えのき栽培名人）」に沢尻区の唐澤政喜さんが認定され、2月に開催された「第20回明日に翔け！上伊那ファーマーズの集い」で表彰されました。



農業功績者

田中実さん（68歳）大泉区



田中さんは、農業委員をはじめ、長野県西部南箕輪土地改良区の総代及び理事、地区の営農組合長や水利組合長などを歴任し、

地域からの厚い信頼を得ています。営農組合長時代には、20人程度の栽培者をまとめて組織し、遊休農地を利用して当時推奨された加工用キャベツ栽培を始めました。組織の加入者同士の交流や懇親にも気を配り、遊休農地の解消にも大きく貢献しました。



農業名人

「えのき栽培名人」

唐澤政喜さん（64歳）沢尻区



唐澤さんは、農業大学を卒業後22歳で就農しました。大学在学中に自宅の近くにえのき栽培の施設を作り、42年間えのき栽培を行っています。現在は、9月から3月までの間に、およそ2か月間隔で常時8万本のえのきを栽培、年間の生産量は約30トンになります。えのき栽培は、培養の温度と湿度の管理、また雑菌が入らないように無菌室管理が重要なことです。良いえのきは、茎が太く、かさは丸く乾いており、張りや艶があり、何より日持ちすることが大事だそうです。唐澤さんのえのきは、その条件を満たしており、今後も丁寧な栽培を心掛けたいとのこと。

農地利用調整会議

令和5年11月30日19時から、村役場2階講堂にて「農地利用調整会議・農業者意見交換会」が開催されました。春からの農業経営計画のため、11月の開催が定着しつつあります。

農業者39名、農業委員会から14名、地域計画検討委員6名の合計59名に、JAや県役場職員を加えると総勢70名を超えました。テーブルの上に地区ごとの大判地図が用意され、売渡しや貸付け希望の農地が色分けされており、農業者は耕作を希望する農地に、自分の氏名を書いた付箋を貼っていきます。希望する農地が2名以上になった場合は、担当地区の調整委員が仲介に入り、集積や農地活用などを総体的に考慮してマッチングしていきます。

今年度からは、村のウェブサイトに売渡し・貸付希望農地の公開を始めたこともあり、それらを参考にした村外の農業者の参加が多く、村内の中心的農業者の参加者は少なかったように思います。調整の結果、32筆、約2.5haの農地がマッチングし、今後の具体的な交渉へと進むことになりました。また、農地の調整以外に農業に関わる相談コーナーも設けました。



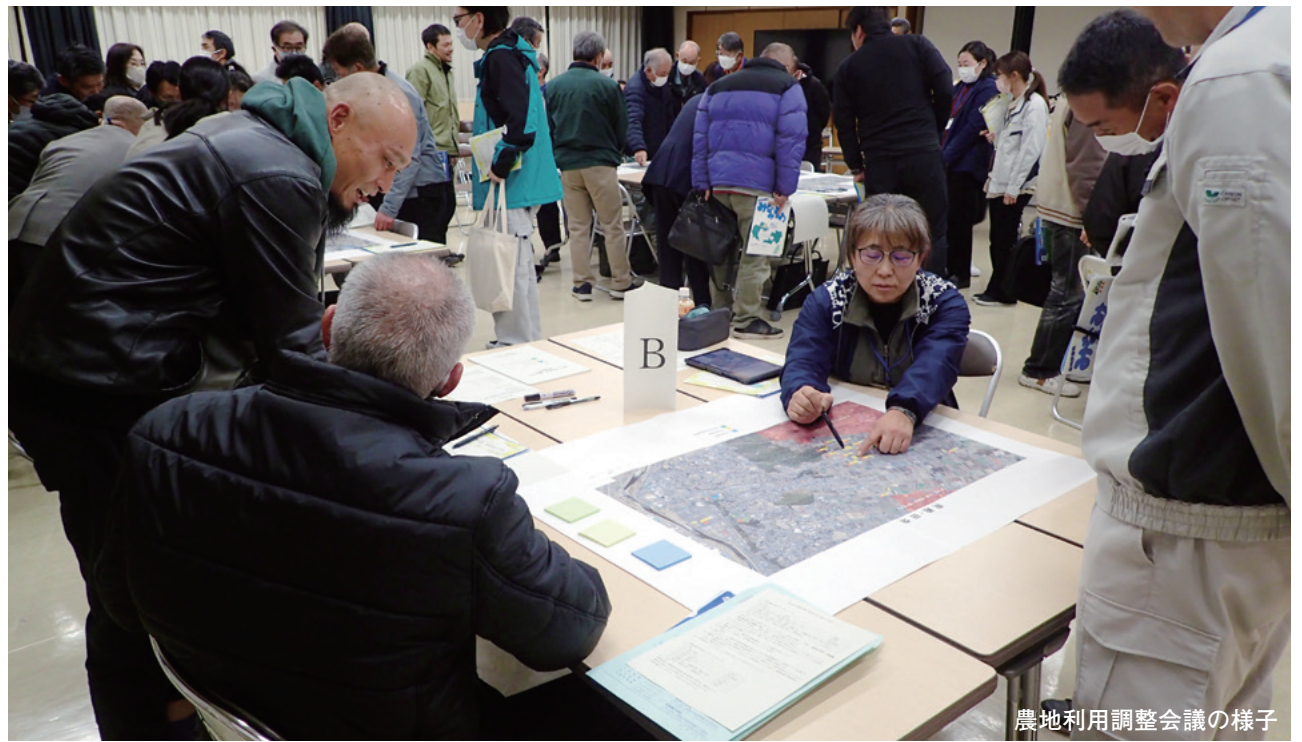
農業者意見交換会の様子

農業者意見交換会

さらに第2部として、農業者意見交換会を行いました。これは、昨年からは始めた取り組みです。農業に関する多様な意見や提案があり、活発な会になりました。

終了後に行った参加者アンケートには、時間が短い、農地情報が少ないなどの意見もありました。後日行った農業委員会のワークショップでも、参加者等の情報不足などの意見が上がりました。次回の農地利用調整会議を、より有意義にするために検討していく必要があります。また、これから始まる、10年後の村の農地・農業を考える「地域計画」についても、農業者の皆さんに活発な意見を出していただき、一緒に考えていきたいと思います。

（報告：農地利用最適化推進委員 酒井文代）



農地利用調整会議の様子